

病棟業務の有用性をアピール

診療報酬の評価を追い風に

昨春の診療報酬改定で病棟薬剤業務実施加算が新設されたことは、病院薬剤師にとって大きな出来事だった。これは、病棟ごとに配置された専任の薬剤師が、医療従事者の負担軽減や薬物療法の質の向上につながる業務を実施することを、診療報酬で評価するもの。病棟のスタッフステーションなど患者により近い位置で薬剤師が業務を行う環境を構築する上で、同加算は大きな追い風になっている。

病院薬剤師の業務範囲は年々広がり、その内容も高度化してきた。かつては病院の薬剤部にこもって入院・外来患者の処方せん調剤に明け暮れる時代もあったが、1990年代に本格化した医薬分業の進展に伴って、そのような職場環境も大きく変わった。

薬剤管理指導料という診療報酬の後押しもあり、病院薬剤師が病棟に出て

業務を行う機会が次第に増えた。薬物血中濃度モニタリング(TDM)を武器に医師の処方設計を支援したり、緩和医療の一端を担ったりするなど、意欲的な薬剤師たちが各病院で業務を切り開いてきた。多くの病院でも、ベッドサイドでの服薬指導、持参薬管理、医師や看護師への情報提供、抗がん剤や一般注射薬の混合調製などを手がけ

病院薬剤師編

るようになった。

こうした業務拡大を背景に、薬剤師の病棟配置を評価する診療報酬として昨春、同加算が新設された。従来の薬剤管理指導業務と区別するため、病棟薬剤業務は主に、投薬前の患者に対する業務とされている。

具体的には、▽患者背景と持参薬確認、その評価に基づく処方設計・提案▽副作用モニタリングなどを通じた患者情報の把握と処方提案▽医薬品の情報収集と医師への情報提供▽薬剤に関する医療スタッフからの相談体制整備——などが該当する。これ

らは既に多くの病院で取り組んできた業務だ。

同加算を算定した病院を取材してみると、医師や看護師は薬に関する不明事項をそばにいる薬剤師にすぐに相談できることを高く評価している。目には見えづらいが、これは医療の安全性確保につながる。また、多忙を極める医師からは、薬剤師による処方設計支援や処方提案、薬物治療全体のマネジメントはとても助かるという声が多い。

現在、全国の1割以上の病院が同加算を算定しているようだ。ただ、薬剤師を増やさずまま算定に踏み切らざるを得なかった病院も多く、不十分な業務になってしまいかねないことが危惧されている。各病院が同加算をどのように薬剤師の人員増に結びつけるのか、また、今回の診療報酬改定に向けて、病棟薬剤業務の有用性をいかに目に見える形で示していくのが今後の課題だ。

東京医科大学病院薬剤部

東加奈子さん



「がん専門」としてチーム医療を実践

の病棟活動と同院の病棟活動が全く異なり、「チーム医療が根づいていた」と感じたことや、「薬剤師が医師や看護師と対等に話し、病棟に薬剤師がいなくてはならない存在という空気があった」ことが病院薬剤師になることを決めたきっかけになった。

東さんは、「薬剤部の雰囲気がすぐよかった。また、皆で仕事に取り組もうという空気があった」とふり返る。自分の所属する薬剤部だけでなく、チーム医療がしっかりと根づいていた病院ということが就職の決め手だったと話し、「今は病院実習が2カ月半あるので、たくさん学んでいろいろ吸収してほしい」とアドバイスする。

同院では、注射薬の混注など、薬剤部の中央業務等を経験し、2年後には消化器・婦人科病棟、乳腺科外来の担当となった。

現在、がん専門薬剤師の資格を持つ東さんは、総合診療科をはじめとする全診療科の入院を受け入れる病棟や、乳腺科外来などを担当する傍ら、緩和ケアチームにも所属している。

緩和ケアチームでは、医師・看護師等と一緒に、患者家族や各病棟などから要請のあった患者のもとを訪れ、患者の状態や訴えを細かく聞いた上でアドバイスをしている。

学生時代に何をすべきかも重要になるという。東さんは「全力で遊び、全力で学ぶこと」と強調する。患者の話聞くことが最も大切な仕事に

なるため、「自分自身の様々な経験が乏しいと話がふくらまず、うまくコミュニケーションがとれない」という。学びのポイントとしては、単純に暗記するのではなく、「1つひとつの教科がつながるように考えながら学ぶこと」と話した。

最後に、自分の進路を迷っている学生に向けて、どのように活動していけばいいか聞いた。

「チャレンジ、リフレクション(振り返り)、エンジョイメントの3つをうまく回していけば、どの現場でも活躍できる薬剤師になれると思う。人との関わりややりがいを感じたいなら、職種を選ぶ中で病院に興味を持ってくれたらうれしい」と薬学生にメッセージを送った。



企業概要

- 設立/2003年7月1日
- 資本金/1億円
- 代表者/加藤浩一
- 売上高/44億円(2011年度)
- 従業員数/461名(2012年11月1日現在)
- 事業内容/臨床開発モニタリング、データマネジメント、統計解析、臨床システム、製造販売後調査、安全性情報管理、薬事コンサルティング、グローバル開発支援
- 事業所/東京本社、大阪

待遇と勤務

- 初任給/大卒 211,000円、修士 231,000円 ※2012年度実績
- 諸手当/通勤手当、時間外手当、出張手当
- 昇給/年1回
- 賞与/年2回
- 勤務時間/9:00~17:15 ※フレックス制度有
- 福利厚生/社会保険完備、退職金制度、健康診断、会員制福利厚生施設

お問い合わせ先

- 採用研修室 (recruit@acronet.jp)

- 私たちはITを駆使して、臨床開発業務の「スピード」「クオリティ」「セーフティ」の向上に貢献します。
- フルサービスが提供できる真の「総合CRO」です。

日本CRO協会正会員 伊藤忠商事グループ企業

株式会社ACRONET <http://www.acronet.jp>

本社 〒112-0002 東京都文京区小石川1-4-1 住友不動産後楽園ビル TEL:03-3830-1122(代表) FAX:03-3830-1155

大阪事業所 〒550-0012 大阪府大阪市西区立売堀1-3-13 第三富士ビル TEL:06-4391-4373(代表) FAX:06-6533-0316